

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里 グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字北上の割2020-3		
自己評価作成日	令和5年2月7日	評価結果市町提出日	令和5年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470301017-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470301017-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 5 年 2 月 21 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・職員が笑顔で楽しく生活出よう、安心できる柔軟なケアを心掛けている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2003年10月に鈴鹿市の北西部に開設された「さつきの里グループホーム」は今年で20年目を迎える近隣有数の事業所である。事業所規模は2ユニット定員18人、現在21名の職員が「一人ひとりを大切に寄り添う支援」を主題とした理念を掲げ、日々努力を重ねている。付近の立地は工場や企業事務所が集積された地域で、民家とは若干離れているものの伊船町を地元として自治会にも加入しており、更に運営推進会議を通じて隣町の自治会とも交流があるなど、隣接するデイサービス施設と共に地域差を感じさせない地域密着型事業所としてランドマーク的な立場・役割を築いている。今後、益々発展が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアーに掲示して、職員が意識出来るよう心掛けている	開設当初からの理念を5年ほど前により分かり易く変えたもので、「一人ひとりを大切に寄り添う支援」を主題として各ユニットのホールなどに掲示している。職員会議での振り返りなど、実践に引き当てて大切にされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着いた4月に馴染みある椿神社にお花見に行き、施設の車を見て地元の方が手を振ってくれたり、5・7月は外出に出かけたりとお出かけの時間大切にしている	地元の伊船町自治会に入会しており、市報や自治会のお知らせなども滞りなく受け取っている。また隣の深浦町自治会からも運営推進会議に参加して貰うなど、近隣に民家は少ないものの地域とのつながりは独自のものを築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年も活かしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内では推進会議はしていないが、年間報告を郵送している	運営推進会議は地元自治会の他、隣接自治会からも参加して貰っており、民生委員や老人会、行政関係者など多方面からの構成となっている。なお現在はコロナ禍の状況で会議は行われず、1年分の報告を一括して5月に報告したのみである。	昨年のステップアップ項目として、年1度の報告を少なくとも2カ月毎に行うこととしていたが達成できなかった。今後も引き続き努力されたいが、更にコロナ明けを見据えた対面での具体的な会議実施計画を立てられるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ陽性者の対応・コロナ感染対策など報告や相談をしている	行政関係は主として鈴鹿亀山地区広域連合を窓口として、保険更新など様々な事案で関係を築いている。また研修会の開催などで市役所長寿社会課ともつながりがあり、それぞれ関係は極めて良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回のサービス担当者会議、2カ月に1回身体拘束・虐待の研修を行い、身体拘束のないケアをしている	概ね2カ月に1度の割合で職員研修会を行っているが、わざわざ構えるのではなく毎月の職員会議で普段の支援を振り返り、具体的な研修を行っている。また適正化委員会は、管理者・施設長・フロア長など各々の責任者が参加して3カ月に1度開催されており、事業所としての意識は高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回のサービス担当者会議、2カ月に1回身体拘束・虐待について学んでいる。施設では会議関係なく職員の言動には日頃から意識して気をつけている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設について説明し、利用者・家族様と納得できるケア・サービスを提案し納得していただいている。改定等は書面でお知らせをして、同意書をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染対策の為、面会制限期間が続いた時に少しでも会いたい、差し入れしたい等の要望に窓越し等で面会してもらったりと、出来る限り希望に応えられるよう努力した	コロナ禍ではあるものの、その時々状況を判断しながら面会の解除に踏み切っており、現在は月1～3回、居室で15分を限度として対応している。このことは利用者の喜びもさることながら、家族としても職員に直接意見が言える機会となっており事業所の前向きな姿勢がうかがえる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長・管理者は日頃から勤務状態を把握し、職員の意見は常に聞き入れる体制をとっている。職員会議にも毎回参加して職員意見を受け止め、施設修繕・車椅子購入等にも即座に対応している	職員意見は月1回の会議の中で聞き取ることとしているが、特筆すべきは会議の1カ月前を目途に職員に議題の提案を促し、更にそれに対する意見を募ったのち会議を行うというもので、議題と目的の明確化、意見集約が図れることで効率的な職員意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期の年2回、人事評価表で施設長・管理者で評価表項目をもとに評価を行っている。施設長面談も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・ケアマネは現場勤務も多く、職員の力量は十分把握している。施設長も常にGHフロアー事務所にいたり、行事に参加したり、管理者の報告により職員の事は把握している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は交流はできていない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の自宅・ショートステイ先での面談にて得た情報・本人要望などをもとに、サービス導入する段階でコミュニケーションをとり再度要望・希望を確認、様子を伺うように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の時と同様、契約前からの情報を元にサービス導入時からケア・サービス内容を確認したり、信頼関係づくりに務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での出来ること出来ない事も十分説明したうえで、要望に対する支援をしっかりと話し合うようにしている。専門病院受診の通院継続を含めたケアもしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来るお手伝い、食器拭き・ゴミ出し・洗濯など利用者様と協力しながらして頂き、出来たことに感謝を伝え、次回また手伝いたいと思って頂けるような声掛けを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の健康状態の相談・看取り期間の密な連絡は欠かさず行い、家族様と相談し、いいケアが出来るよう努めている。看取りの際は面会制限中でも面会に来て頂き、家族と共に支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人の方からの手紙の返事をご本人に書いていただく様支援したり、書けない時には管理者が家族の了解を得て、返事を書いている	利用者のうち自治会が同じであったり利用者家族同士が知り合いなど、図らずも近い関係であったという人がいて、共通する馴染みの場所やモノを辿ることで関係継続が容易になることがある。職員はこれらの機会を大切に捉え、途切れることのないよう更なる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	表情や行動を読み取り会話が楽しくなるように職員が間に入り場を取り持ち、不穏になる要素のある事は職員が想定して話題を変える等の対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、1カ月ぐらい経ったときに、家族様に管理者からお礼のお手紙を送り、相談しやすい体制を心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人希望で自室内で食事をし、1日の生活を自由に自室で過ごされている方もいる。入所前からチョコレート・サイダーを毎日食べている方には、自室で自由に食べられるように管理・支援している	利用者の中には意向の分かり難い人も何人かおり、言葉でのコミュニケーションは一方通行になりがちだが無表情の人はおらず、その顔や仕草を見るだけで、ある程度の思いは判断できている。職員のそのスキルと利用者との信頼関係が支援の基になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前には自宅面談やショートステイ先等、可能な限り入所前の環境を見て、家族様に情報収集し、毎日の関わりの中でも本人背景の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルチェックで体調・心身状態の把握に努め、職員間で共有の徹底に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族様の意向を踏まえて、担当者会議で都度課題とケアの見直しを行い計画作成をしている。看取りではかかりつけ医・家族様・施設で病状に合わせて都度相談しケアをしている	介護計画期間は3カ月を基本としており、その都度ケア会議にかけている。その際、特に必要と思われる利用者には事前に職員意見の集約を行い効率運営が図られている。モニタリングはケアマネージャーが行い、家族・医師など必要な関係者に意見を聞きながら総合的な計画作りである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護日誌・口頭の申し送りで利用者様の日々の様子を把握し、実践・結果・気づきを申し送りノートに細かく記入し職員間で情報共有し、担当者会議で計画書の見直しの意見交換をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ感染・看取り介護で通常の業務を大きく変更し対応しなければならなかった事もあり、個々に合わせて柔軟にサービスを提供出来るように努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある地域の神社へドライブ花見を楽しまれたり、職員実施の行事を楽しみにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診・24時間緊急対応していただいている。専門病院に受診されている利用者様がみえ、付き添いの家族様・病院と連携している。	利用者全員が協力医に掛かっており、月2回の訪問診療や必要に応じての看護師派遣、更に24時間対応は利用者と家族の安心につながっている。他科診療は原則として家族対応であるが、遠方など止むを得ない場合は事業所が出向くこともあり、手厚い支援となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤での看護師はいないが、併設しているデイサービスの看護師に応援を要請することができる。かかりつけ医は24時間対応していただいている。看護師もかかりつけ医の指示で施設にきていただける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から、家族様・病院ケースワーカー担当との情報交換に努め、本人・家族様の意向に添えるよう支援している。退院の際のお迎えの支援もしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化した場合の説明をし、看取りについても説明を必ずしている。体調変化で早めに看取り希望・延命希望等を家族に相談し、かかりつけ医・家族・施設で連携し方針を決め、同意書にサインしていただき支援に取り組んでいる	事業所として看取り支援は実施していく方針であり、昨年は3件の該当があった。利用者家族と本人が望む限り全て対応しており、ベテラン揃いの職員は家族と気持ちを分か合いながら真に利用者本位となるよう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設職員は、消防学校で行っている1日講習にほぼ全員参加している。応急処置などは、かかりつけ医・経験豊富な職員から指導はある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っている。近隣の職員が駆けつける体制もあり、日中は近くの親会社に応援依頼できる体制がある。避難用滑り台も定期的に職員が滑り不具合がないか確認している	年2回、主に火災を想定した防災訓練を行っているが、夜間での対処の仕方、消防署が到着するまでの時間の使い方など実践的な訓練となっている。また近接する本社倉庫の事務所から社員が駆け付ける体制も出来ており、災害に対する備えは万全である。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会話が出来ない状態であっても思いや感情を利用者様の表情から読み取り、失礼のない言葉かけや態度に努めている	利用者のプライバシー確保には居室での独立性の尊重、リビングなどの共用空間でのコミュニケーションのあり方、特にトイレ誘導などの声掛けや食事時の座席配置などに気を配っている。なお職員研修はプライバシー尊重、個人情報保護等をテーマに年1～2回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で利用者様の何気ない一言でも職員は気に留めるように意識し、話しやすい雰囲気をつくるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはあるが、利用者様のその日の体調や表情等をみて、職員間で時間配分や役割りを調整し希望に添えるように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様から預かった衣類でご自分で選択できない方には、コーディネートを組んだり、よく似合う服や気に入っている服は長く利用出来るように補修したり、洗濯も別で行い管理している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやし根切り・お茶詰め等食事準備や、食後の食器・お盆拭き・おしぼり巻き等も一緒にしていただいている	食事のうち昼食は隣接するデイサービス施設と同じものを出しているが、朝夕は職員が交代で調理しており、材料・献立などその日の状況に合わせ自由に作られている。また行事食やリクエスト食など少なくとも月1回は実施しており、食事に対する利用者の楽しみは多岐に亘っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は介護日誌で管理している。食事量が少ない時には体調を観察しながら、その方の望む物を提供したり、好みの物に変更するなど1日の量を把握しその都度対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には声掛け・見守りで磨いてもらっている。出来ない方は、職員が歯磨き行っている		



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護日誌を参考に一人ひとりの排泄回数・時間等把握し、職員間で連携とりながらこまめにトイレ誘導・声掛けをしている。夜間はリハビリパンツや尿取りパットを使用している方も、日中は布パンツにしている方もいる	介護度により布パンツや紙パンツ、オムツなど様々な対応であるが、声掛けや誘導などにより出来る限りトイレでの排泄を促している。個々の排泄状況はその都度職員同士で確認し合い適切な支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認し介護日誌で管理し、主治医の指示に従いその方に合った薬を処方してもらい、食事量・水分量も検討・見直ししながら便秘予防に取り組んでいる。運動可能な方には積極的に運動もしていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本午前中が入浴時間だが、利用者様の体調・外出等の予定も考慮し、拒否のある時はその理由を推察し時間をずらしたり、気分転換出来るように努めている	入浴は週2回午前中を原則としているが、時間外での希望や突発的な汚染等には適宜対応している。設備的には一般的な個浴であるが、リフト等の必要があれば隣接のデイサービス施設を利用することとしている。利用者は全員嫌がることなく職員とのお喋りに楽しく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり就寝時間も違う。パジャマは毎日洗濯し、シーツは職員が月の表で管理して清潔に保ち安眠出来るようにしている。居室温度も利用者様の好ましい温度に調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診後の服薬変更等は申し送りノートに記入し、必ず職員全員把握している。症状の変化を確認しながら主治医と連携し、薬剤師が薬を届けてくれて薬剤師との連携はとれている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様個々に合わせて運動したり、みんなでのレクリエーションを楽しんだり、出来るお手伝いで感謝の気持ちを伝えることで張り合いある生活につながっている。月行事も工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染状況・面会制限解除期間にはなるべく外出支援を行い、外食や花見に出かけている。気候がよい時には園庭に出て花・空を見たりしてる	コロナ禍の現状、日常的な外出といえば玄関前のベンチでの外気浴や広い敷地内の日本庭園を散策する程度であるが、それでも4月には近所への花見、5月7月には休みの職員も総出で外食に出掛けるなど、本格的なコロナ明けを目指してその準備に余念がない。	



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難の為、施設管理をさせていただいている。本人の希望でお小遣いで購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望があれば、支援している。知人からのお手紙はお返事も書いていただけるよう支援し、返事が書けない場合は管理者が代わりに書きお返事している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全・衛生面を考え、毎日、各所丁寧に掃除し清潔が保たれている。居室温度などは個々に変えている。共同スペースには思い出の写真・季節感の飾り、窓から見える山の景色で季節を感じられる	玄関ホールから1歩入ったリビングがとにかく広く、正面の掃出し窓から差し込む外光と相まって極めて開放的である。またテーブルやソファがゆったりと配置されている中、一段高くなった畳のスペースが利用者の洗濯量みや休息などに上手く利用されており、憩いの空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにはソファが好きな場所に自由に座れるようにあり、テーブル席は自席もあり、居室にはテレビやソファ・テーブル・冷蔵庫を置かれている方もいて、自由に居室で過ごしやすい空間になっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたイス・机・テレビを置かれたり、入所前からの生活習慣でサイダー・チョコレートなどを毎日食べたいため冷蔵庫を置き、いつでも食べられるよう、毎日整理整頓・掃除し快適に過ごせるようにしている	居室は約8.7畳と広く造られており、天井近くまで届く造り付けのクローゼットや、洗面台などが使いやすい機能的に配置されている。テレビやテーブル、ソファなど利用者思いの調度品が持ち込まれ、その人らしさの居場所づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーで広いフロアー、廊下、手すりの設置もあり、整理・整頓をし、安全に自力で移動・排泄しやすいよう工夫している		